

講義ユニット名	腎臓		所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	まさき たかお 正木 崇生	所属	腎臓内科 (内線 6544)	
		メール	masakit@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	うえの としのり 上野 敏憲	所属	腎臓内科 (内線 4522)	
		メール	tueno-ygc@umin.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>原発性糸球体疾患、尿細管間質性疾患、腎血管性疾患、急性腎不全、慢性腎不全、さらには高血圧、糖尿病、膠原病、感染症、薬物などに伴う二次性腎障害を中心に、病態、症候、診断へのアプローチ、治療法など幅広く腎疾患を理解することが目標です。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p> 体液の量と組成・浸透圧を小児と成人を区別して説明できる。 腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。 腎糸球体における濾過の機序を説明できる。 尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。 水電解質、酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。 腎に作用するホルモン・血管作働性物質の作用を説明できる。 腎・尿路系の画像診断を概説できる。 糸球体濾過量を測定する方法を概説できる。 腎生検の適応と禁忌を説明できる。 高・低Na血症を概説できる。 高・低K血症を概説できる。 高・低Ca血症を概説できる。 高・低P血症と高・低Cl血症を概説できる。 アシドーシス・アルカローシスの定義、病態生理と診断を説明できる。 アシドーシス・アルカローシスの治療を概説できる。 蛋白尿の原因と病態を説明できる。 蛋白尿を呈する患者の診断の要点を説明できる。 血尿の原因を列挙できる。 血尿をきたした患者の診断の要点を説明できる。 急性腎不全の病因、症候、診断と治療を説明できる。 慢性腎不全の病因、症候、診断と治療を概説できる。 慢性腎不全の治療（透析・腎移植）を説明できる。 急性糸球体腎炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。 慢性糸球体腎炎（IgA 腎症を含む）の症候、診断と治療を説明できる。 ネフローゼ症候群の分類、症候、診断と治療を説明できる。 急速進行性糸球体腎炎を概説できる。 腎血管性高血圧症を概説できる。 尿細管性アシドーシスの分類、病態生理、診断と治療を説明できる。 Fanconi（ファンコニー）症候群（腎性糖尿を含む）の概念、症候と診断を説明できる。 急性・慢性腎盂腎炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。 急性・慢性間質性腎炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。 糖尿病（性）腎症の症候、診断と治療を説明できる。 ループス腎炎の症候、診断と治療を説明できる。 アミロイドーシスを概説できる。 アミロイド腎症の症候、診断と治療を説明できる。 膠原病類縁疾患（血管炎症候群、Goodpasture（グッドパスチャー）症候群）の腎病変を説明できる。 IgA血管炎を概説できる。 </p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	<p>出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。</p>			

評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は、基本的には絶対基準で60点とするが、得点率60%未満の受験者が総受験者の10%を超えた場合には平均点 $-1.5 \times$ 標準偏差を合格基準とする。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 内科学（朝倉書店）、新臨床内科学（医学書院） 【その他、学習に有用な参考書等】 Brenner and Rector's The Kidney、腎臓内科レジデントマニュアル（診断と治療社）